産婦人科

【1】研修プログラムの目標と特徴

当院産婦人科は岩手県南から宮城県北にわたる医療圏を有しています。人口にすると約 20 万人規模です。可能な限り患者を受け入れる方針で診療にあたっています。大きな特色として周産期分野においては新生児科との連携のもとに妊娠 28 週以降の分娩について受け入れ可能です。それにより様々な週数の分娩を学ぶことが可能です。婦人科手術においては、積極的に腹腔鏡手術にも取り組んでいます。当院における初期研修で当科は必修となっています。地域医療の担い手となるためには産婦人科的な基礎知識がどうしても必要とされる場面が必ずあるという理由からです。1 ヶ月という短い期間ですが、有意義な研修となることを願っています。

【2】初期研修要項

はじめに

全ての医師にとって、女性の診療を行う上で産婦人科の知識が重要であるのはもちろんであるが、女性の生理的、形態的、精神的特徴、あるいは特有の病態を把握しておくことは他領域の疾病に罹患した女性に対して適切に対応するためにも必要不可欠なことである。そのため当院における医師臨床研修プログラムで当科は必修研修科目のままとしてある。研修医はその意義を十分理解したうえで研修にあたらねばならない。1 ヶ月という短い研修期間ではあるが、これまで産科婦人科学に対して修得した知識を基に、診断と治療の実際の手技を習得することを目的とする。そのためには積極的に診療に参加することにより、診断の手順、検査の選択、治療方針とその実施について研修する。

【3】一般目標：GIO(General Instructional Objective)

（1）女性特有の疾患による救急医療を研修する。
緊急を要する他科疾患との鑑別を的確に行い、初期治療を行うための研修を行う。

（2）妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。
妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に必要な基礎知識と共に、育児に必要な母性とその育成を学ぶ。また妊産褥婦に対する投薬、治療、検査を行う上での制限と特殊性について理解する。

（3）女性特有のプライマリケアを研修する。
思春期、性成熟期、更年期における生理的、肉体的、精神的変化は女性特有のものである。女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解し、それらの失調に起因する諸々の疾患に関する系統的診断と治療を研修する。これらを学ぶことはリプロダクティブヘルスへの配慮や女性の QOL 向上を目指したヘルスケア等、21 世紀の医療に対する要請に応えるものであることを理解する。

【4】行動目標：SBOs（Specific Behavioral Objectives）

１．産婦人科診療に必要な基本的態度に配慮する。	【態度】
２．産婦人科的問診法について説明し実施することが出来る。	【知識・想起・技能】
３．産婦人科診察法について説明し実施することが出来る。	【知識・想起・技能】
４．産婦人科臨床検査を正しく選択し実施することが出来る。	【知識・想起・解釈・技能】
５．正常妊娠、分娩、産褥の管理が出来る。	【知識・想起・解釈・技能】
６．正常新生児の管理が出来る。	【知識・想起・解釈・技能】
７．腹式帝王切開術の手順を説明することが出来る。	【知識・想起・解釈】
８．流早産の管理が出来る。	【知識・想起・技能】
９．産科出血に対する応急処置法が出来る。	【知識・想起・技能】
１０．急性腹症の鑑別と対応が出来る。	【知識・想起・解釈・技能】

１１．産婦人科手術の第２助手が出来る。【知識・想起・解釈・技能】
１２．婦人科良性腫瘍の診断と治療計画の立案が出来る。【知識・解釈・問題解決】
１３．婦人科性器感染症検査、診断、治療計画の立案が出来る。【知識・解釈・問題解決】
１４．婦人科悪性腫瘍の早期診断法と集学的治療について説明できる。【知識・想起】
１５．不妊症、内分泌疾患患者の治療に関して説明することが出来る。【知識・想起】

【5】方略(Learning Strategies)

LS	方法	該当 SBOs	場所	媒体	人的資源	時間	時期
1	講義	2,3,5,8 12～15	外来 E 3 西病棟	PC プリント	指導医 研修医	2 時間	火、水曜日
2	病棟研修	1～6, 8～10 12,14	3 西病棟	入院患者	指導医	4 時間	毎日 午前・午後
3	外来研修	1～5, 8～10 12～14	外来 E	外来患者	指導医	2 時間	毎日午前
4	手術室研修	1,7,11	手術室	手術患者	指導医	3 時間	月、木曜　午後 火曜日

【6】教育評価(Educational Evaluation)

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1	形成的	態度	指導医	実習中	観察記録
2～6	形成的	知識、技能	指導医	実習後	口頭試験　観察記録
7、11	形成的	知識、技能	指導医	実習後	観察記録
8～10、 12～15	形成的	知識	指導医	実習後	シミュレーション レポート

【7】週間予定

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 病棟外来 業務	病棟回診 病棟業務 手術	病棟回診 病棟外来業務	病棟回診 病棟外来 業務	病棟回診 病棟外来 業務
午後	手術 病棟回診	手術 症例検討会 病棟回診	１ヶ月健診 周産期ミーティング 病棟回診	手術 病棟回診	外来 病棟回診

上記予定に従って研修を行い、症例検討会ではプレゼンテーションを担当する。
分娩に関しては基本的に全例呼び出すものとする。
研修終了時に指導責任者は EPOC を用いて総合的評価を行う。

【8】指導責任者および指導医・上級医

指導責任者：菅原　登

指導医・上級医：西本　光男、荒井　真衣子

指導医 上級医名	役職	卒業年	主な分野	専門分野	臨床研修指導医
菅原　登 （すがわらのぼる）	第 1 産婦人科長兼 周産期医療科長	2002 年	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 母体保護法指定医	周産期医療	○
西本　光男 （にしもとみつお）	第 2 産婦人科長	2004 年	日本産婦人科学会産婦人科専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医、医学博士		○
荒井　真衣子 （あらい　まいこ）	産婦人科医長	2003 年	日本産婦人科学会産婦人科専門医 医学博士		

【9】2015 年度実績

手術件数　総手術件数 367 件

（婦人科開腹手術 21 件、腹腔鏡下手術 71 件、経腟手術 56 件、その他 8 件）

分娩数　　660 件（帝王切開 207 件を含む）

【10】施設認定

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設